

第52号（最終号）

平成28年4月1日
編集/市民力かわら版編集委員会
発行/矢板市秘書広報課
電話：0287-43-3764
ファクス：0287-43-2292
Eメール：
yaita@city.yaita.tochigi.jp

市民力かわら版

『市民目線で市民情報誌を作ろう』と平成十九年四月に遠藤市長が提唱され、公募で集まった市民六人が同年七月に編集委員会を組織し、市民記者が誕生しました。その後八年半、「市民力かわら版」を隔月発行し、全戸配布を継続してきました。

かわら版は、『市民力の発掘と応援メディア』を基本コンセプトとして、市民記者が



企画・取材・編集し、紙面で市民力の実態を紹介してきました。今月、かわら版の生みの親である遠藤市長が任期満了に伴い、市長を引退されます。これを機に、この「市民力かわら版」も一旦区切りをつけ、今号で最終号を迎えることになりました。

今回で最終号となりました

●遠藤市長のコメントと印象に残っている記事

東日本大震災では、矢板市も大きな被害を被りましたが、市民は無意識のうち、お互いに助け合い、支え合っていました。これこそ市民力の現れであると感じました。

「岡目八目」や「矢板の元気印」などのコーナーで個人の方から話を聞き、それをまとめて記事にしてみました。これはかわら版だからこそ書くことができたのではないかと

と思います。

創刊号で『「市民力かわら版」が地域における市民力を発揮したさまざまな活動の起爆剤となることを願っている』と期待を込めて書きましたが、この八年の間に市民活動がかわら版が取り上げ、それを讀んだ市民がその活動に参加したり、新たな活動を始め、市民力を発揮した活動が増えていきます。これもかわら版のよい影響だと思っています。

取材にご協力いただき ありがとうございます！

創刊号は、平成十九年九月十五日に発行し、平成二十八年四月一日発行の第五十二号までの八年半の間、市民記者に変動はありましたが、ほぼ

五人から六人のメンバーで発行を続けてきました。毎週水曜日に編集会議を開き、各市民記者が集めた情報から、次号のテーマや企画、取材の担当を決め、原稿を作成し、レイアウトや校正などを行いました。

花火大会、あんどん祭り、そのほかの行事や催事についても、単にその内容を知らせるのではなく、主催者の意図や苦労話、ボランティアの人や参加している人からも生の声を聞いて記事にしました。

記事として紹介することで「市民力」と「市民力」がつながったり、新しい「市民力」が生まれたりする、その媒体やきっかけづくりになってほしい、との思いでかわら版づくりを続けてきました。

最終号にあたり、今まで取材の依頼に対し、快くご協力いただきました方々にお礼を申し上げます。（編集委員長）



市民記者全員による市長への取材風景